

科目名 (科目番号)	在宅看護援助論 (074182)	教員名 荒木章裕 他	学科等	看護	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
			オフィスアワー		A313研究室(荒木)		
授業概要	在宅看護における援助や援助方法(対人援助・フィジカルアセスメント・技術展開)、看護過程(看護計画立案)など、在宅療養者への支援に必要な知識・技術について理解する。また在宅療養者の療養生活支援における看護職の役割と機能、関係機関や多職種との連携・協働による在宅支援について学ぶ。 関係する垂直軸:看護、人間の理解、生活環境、健康の状態、コミュニケーション、多職種連携						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	オリエンテーション 在宅看護の実際	到達目標:授業概要を理解する。在宅看護を行う上での心構えや留意点を理解できる。 学習内容:授業計画のオリエンテーション及び在宅看護活動の基本について学習する。				
	2	生活援助①	到達目標:在宅療養者への援助に必要な看護技術を習得する。 学習内容:呼吸機能/食生活・嚥下/排泄/移動・移乗/清潔/認知機能/服薬について学習する。				
	3	生活援助②					
	4	生活援助③					
	5	フィジカルアセスメント①	到達目標:在宅看護を行う上で必要なフィジカルアセスメントの重要性を理解し、実施できる。 学習内容:在宅で必要なフィジカルアセスメントについて学ぶ。				
	6	フィジカルアセスメント②					
	7	医療処置①	到達目標:在宅療養者への援助に必要な医療処置の技術を理解し、指導・援助ができる。 学習内容:褥瘡/膀胱留置カテーテル/ストーマ/経管栄養/在宅中心静脈栄養法/在宅酸素療法/在宅人工呼吸療法について学習する。				
	8	医療処置②					
	9	対人援助・技術展開①	到達目標:洗髪を例にして、訪問看護の実際を理解する。 学習内容:訪問看護の実際(訪問、フィジカルアセスメント、洗髪)について学習する。				
	10	対人援助・技術展開②	到達目標:在宅にある物品を工夫し、在宅で洗髪援助のシナリオを作成できる。 学習内容:在宅にある物品を工夫して洗髪の援助ができるよう、一連の看護実践を立案する。				
	11	地域包括ケアの実際	到達目標:地域で支援を行っている地域包括支援センターの役割や機能、高齢者支援の実際及び連携の必要性と看護の役割について、自分の考えをまとめることができる。 学習内容:招聘講師による講義「地域包括支援センターの活動の実際」について学習する。 (外部講師:地域包括支援センター保健師 小野瀬敦子氏)				
	12	対人援助・技術展開③(演習)	到達目標:シナリオに基づき、在宅を想定した洗髪援助(ロールプレイ)ができる。 学習内容:訪問からフィジカルアセスメント、洗髪の一連の看護援助をシナリオに基づき実践する。				
	13	対人援助・技術展開④(演習)					
	14	看護過程①	到達目標:在宅看護における看護過程の特徴を理解し、アセスメント・看護計画の視点を理解する。 学習内容:在宅における看護アセスメント・看護計画を学ぶ。				
	15	看護過程②(演習)	到達目標:グループで紙上事例を用いて情報を整理し、アセスメントができる。 学習内容:在宅看護における紙上事例を用いて、情報収集及びアセスメントをする。				
	16	看護過程③(演習)					
17	看護過程④(演習)						

授業計画	18	在宅療養者の看護①	到達目標:在宅療養者が抱える疾患の特徴に応じた援助方法について理解する。 学習内容:末期がん、ALS、脊損、COPD、脳卒中、糖尿病などの疾患を抱える在宅療養者の看護について学習する	
	19	在宅療養者の看護②		
	20	地域連携①(疾患概要)	到達目標:筋萎縮性側索硬化症の疾患概要と障害について理解する。 学習内容:筋萎縮性側索硬化症患者の生活について学習する。 (理学療法学科における地域連携論と合同講義)	
	21	地域連携②(職種の理解)	到達目標:介護支援専門員・理学療法士・社会福祉士・保健師・介護福祉士・作業療法士・言語聴覚士の業務について考えることができる。 学習内容:介護支援専門員・理学療法士・社会福祉士・保健師・介護福祉士・作業療法士・言語聴覚士の業務を学習する。 (理学療法学科における地域連携論と合同講義) (社会福祉学科・理学療法学科・社会福祉学科・外部講師)	
	22	地域連携③	到達目標:筋萎縮性側索硬化症をもつ在宅療養者に求められる看護師の役割について考えることができる。 学習内容:在宅生活を送る療養者を支える多職種の役割について学ぶ。	
	23	地域連携④	到達目標:対象者・家族の臨む生活実現のための多職種の役割について考えを述べるができる。 学習内容:過去の講義内容を踏まえて他学科学生と協働して援助計画を立案し、プレゼンテーションを行う。 (理学療法学科における地域連携論と合同講義)	
	24	地域連携⑤		
	25	ターミナルへの援助	到達目標:ターミナル期を在宅で迎える療養者や家族への援助について説明できる。 学習内容:在宅ターミナルケアの事例をとおして、その実際を学習する。	
	26	看護過程⑤	到達目標:紙上事例を用いて、個人及びグループで看護計画を立案できる。 学習内容:在宅看護における紙上事例を用いて、看護計画を立案する。(個人ワーク、グループワーク)。	
	27	看護過程⑥		
	28	看護過程のまとめ①	到達目標:各グループで発表した事例の看護計画をとおして、在宅における看護過程について理解する。 学習内容:グループで展開した看護計画を発表し、学生主体で討論する。	
	29	看護過程のまとめ②		
	30	訪問看護の実際	到達目標:実際に行われている訪問看護をイメージでき、訪問看護の役割を理解する。 学習内容:招聘講師による講義「訪問看護の実際」について学習する。 (外部講師:訪問看護ステーションうしく管理者 福恵節子氏)	
成績評価の方法・基準	個人ワークレポート(10%) + グループワークでのレポート(10%) + レポート(20%) + 筆記試験 (60%) で評価する。			
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論	河原加代子 著者代表	医学書院	
参考図書	1.ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア在宅看護論 2.看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 3.関連図で理解する在宅看護過程	1.櫻井尚子 ほか編 2.正野逸子・本田彰子編著 3.正野逸子・本田彰子編著	1.メディカ出版 2.メヂカルフレンド社 3.メヂカルフレンド社	
教員からのメッセージ	在宅看護論は、看護師養成課程における「統合分野」の一つであり、各看護学における学びを総動員して取り組む分野です。したがって特有の難しさもありますが、在宅看護援助論の演習等を通して、在宅で療養生活している方へ思いを寄せながら療養者が望む生活への支援とはどうあるべきかを考え、看護学生として一段ステップアップすることを期待しています。招聘講師の講義ではレポート課題を課します。提出のあったレポートはコメントを付して授業内で返却します。なお、授業の進度、その他により順序や内容を一部変更することがあります。			